

黎的

2面につづく

集めた法隆寺の塔



白鳳時代の建築美
を語る東照宮の塔

十一月三日開催の「文化の日」に、その
なかで「秋の落日」として心も涙も清ら
かに秋祭りを鑑みよ。

私は遂にかつ前主様から授けられた大相
師の英徳師匠とバカを喰はせられた。
珍しく神上にも大相師、地坊の行目相で
したが、バカが行く山形野郎。そして大
和の地には、酒の味、酒の香、酒の気配
のすべてが、閑たなびく春の空のなまや
がをみ込めおりました。

かつての飛騨、飛騨、自風、天平へと
遷徙する「祖先の文化が、いまスナッ
プと七〇年代のストモダに現れてい
る」

しかしその遷徙したすなわち、神を失
つた少年が生き延びたか、やがて明日主
の昇華の結晶を見たか、やがて明日主様
の万有の恩恵を受けようとして、「い
つかのまが悲念の疑念」によって、その
（かま）の山城平野、大和流の暖み切
つた温気なななる秋の夜更けを待た
みせること、ひそかに心に育たれたも
の。神・神徳に落ちたり、そして学
生の悟は、昨日からの市立大に学生大
会の日といやがてにも訪れた大信
仰の誓い。若き熱熱の燃えられた
まが、

行き詰まる現代農業

一日も早く御教えを世の人に

十一月十三日にかけて第二回
に西及び東と以外にはないの
学生参拝日が開催されました。七
月十九日に第一回学生参拝日が行
なされました。

[illegible]

このうえに喜びました。

十二月廿午後七時受付開始と同時に参加者が続々と集まり、七時三十分の入場式に全員そろって御神前に参拝。そのあと会長先

至やめなければならぬ、と頼んでいたのを、何とかしてこの友達に無様のお方と御教を知らせてあげたい、御浄土でよくなつてもいい、という一念で彼女を教

青年信

した。会長先生の指導のあつく、広
間・移動、スケジュール説明を聞
き、八時から会長先生より「明主様
の基礎的師教を御話しをいた
さした。」と、

とくに現在の世の中では、師教が
くつと、どうしてもがたの要る

園園なり、振舞臺（即ち肥田、酒造業使用）の行き詰まりがハツリしてまいり、社会的なクロニクルツサされていますが、これ幸甚のことは明証が我々人類に與るべきもので、勇気の湧くもので、たとへば、愛國者が、王通

青年信徒の魂磨く

第二回 學生參拜

飛鳥・白鳳・天平の芸術

私を二歩、歩み遅く見えていた。主君様、我々に与えてくださった御恩に、共に集うことができて、その後の御礼、今日と使わることができていることを、私達の手でできたことに感謝をこめて、全員の御礼をこめて、教師御礼をい、朝食をいただいた後、学生と主君様と三日を「青年参詣」にすごしていた。青年参詣に合った。

[illegible][illegible][illegible][illegible]

おかけ話

私は五つの「執念」を持っており、そしてそれごとくを、大神様より授けられていたが、またよく明主様の御教えにうたい大分解明させたいにはおりましたが、身をもって体験いたしました甲斐を、つきき報告させていかなければなりません。

私：四十年前に病弱で診察を受けましたら、座禅科神師と語られ、「入院二十日は最少しなかつて退院しろ」と言われ、またも頼み出しますの、レントゲン検査を受けると一週間の骨髄液がんであり、神経を腫れていました。養生してあれば治る」と

五つ

五つの病氣救われる

見知らぬ人に導かれて入信

勝山末吉

からあち身体をかくて打ちまじし
 当車大教授は病院の医長に近
 所を聞いておられまゝで、た
 治療していたが、それで治つた
 のを信じておられましたと云ふ、
 昭和四年の秋、胸が痛みに
 出たので、いかにあつたか
 子、胸の動脈が断れて、その子
 ならずして死ました。その子
 また病み出し、の癪して、結
 腸二、三はその病に仕事す
 にならず、ブラフする日々を
 こしてまゐりました。

二、昭和十八年、東京普
 愛専門学校行つておりました
 子が、かかせになり、腸が
 ならずして死ました。その子

また病み出し、の癪して、結
 腸二、三はその病に仕事す
 にならず、ブラフする日々を
 こしてまゐりました。

三、昭和二十年で、その以

り、一二月分休会おりました
が以來近せず、「カシガシ」
で困つてゐました。五・
神降臨で丘が傾き、しま
いはめることが寄せませ
した。

以上三つのほかにも腎臓
弱くなりますと、門面（二自体箇）
の相がかつてありまして、ガツ
ガツしましたので、神様と医師
との交際のつかない私は、それな
らばの神降を、おぼえまじくこ
ころ、仁王様に、神様があること
聞いてくださるあの思い出し、

思つてございます。なんだ、
行つて下さるが、これらは然し
わねた御縁だとなす歴史が、
横に展開致しております。

山田様に初めて御守霊をい
たら、早速教會館内に入ら
した。そのとき取本様（中村

[illegible]

か？
十五日入道のお祈りをしました
が、神前には渡船はできません
から、神門へといはせ掛つて、
四段の御舞で、足の方をまん
とすわらうよななり、目の他
知らぬ踊りさうおどして置い
たきました。入道もめえなまじ
んだが白装束のままに、へでは野
七十八歳のおばさんですが、
心算が妙で、医者から見れば、
日に西本家の清明までおれま
した。四月十六日六月初めに
て浄室を「三十才」賜さしてい
だき、両面程とまさせていただきます。
五・六日帰郷して参
愛いた兄や、市内病院に通
ひ、一年五月間を頓つて自
己のほうより治らす。自
目同様だが、御志をいだ
いて副科が目くらうき見え
るようになつた。

過去モルネキを打つて病弱等
だらけたり、四方延醫を招きた
り、

この三日間を通じて学生諸
君の様子の無類とこれに比し、
随々へ突き進まれたのは、
いかに使命感で、我々が世界
の若者の中心環境を模索して
て世界の未来へ希望の光を照
らすことと認識で、現実の力
だとして活動の社会教育の責
任を負つた精神の社会的責任

父様 から、平月姫すれば、すべ
ての病は癒せしよと助言を
いただき、勇気づけられて、教会
へ通わうといふきました。
それから間もなく四月三日
、御参事のお手事でいひなき
月に入信されました。また山田
いひなきも、

[illegible]

生参拜曰

飛鳥・白鳳 夫平の芸術

美術の先生

美賀 良雄

たことなごうだ。車中では先生がいたたまれず、南座より先生から奈良までの心算えらばお聞きして、南座へ参詣。まず法橋寺を拝観させていただきました。飛鳥建雲の代目としての法橋寺五重の塔、飛鳥の延千數百年のもの、併しそりきつて、然然と目下民族の歴史を物めつけながら、聖文化の傑作を手順音階に心をみは

の指導で法隆寺の五重塔を写
いて、明王様が昭和十七年四月
二十九日以後放逐された有り難い
津はれ、奈良宗正教団、日本
文化財の地と創設された下、崇
高な美にまつたの地を、明
王様を救っていくんべ、と御
引き続けたこと、また奈良にお
いて明王様が実臨し御感になっ
た時、我々人類と云う非常な
られた時、御神聖な高貴な
つなを草草と教えるた
ています。この記すべき多
非する機会をえたいにたの
は非常な事と云うです。

[illegible]

以上は凡三千二百餘冊目
 「人知は百世に伝ふる」の引
 契むて夜の國にせむに
 道の野第一輪折りてさす
 菊神して産屋は明るく朝日さす
 ホルル路ちゆるく渡つ秋の水
 丸田 昌子
 中津美津雄
 夢の夜は紫雲をよみ
 赤の菊生々白の花
 道の菊生々白の花
 菊野をさすきなきの風
 夕露のむせふ山根より登る
 丸田 昌子
 大崎 光昭